

富山県総合計画審議会 第2回県西部地域委員会

1 日時 平成29年11月28日(火) 10:00~12:00

2 場所 ホテルニューオータニ高岡 3階万葉二上の間

3 出席委員

川村委員長、北村副委員長、高橋正樹副委員長、夏野修副委員長(オブザーバー出席：齋藤副市長)

明石委員、稲田委員、大坪委員、大野委員、尾崎委員、小泉委員、坂井委員、桜井委員、清水委員、高橋克史委員、田中委員(オブザーバー出席：工藤副市長)、寺下委員、夏野元志委員、服部委員、花島委員、林説則委員、林正之委員、牧田委員、村江委員、八十島委員

4 議事

- (1) 答申検討案(地域別の特性と取組み【高岡・射水地域】及び【砺波地域】)について
- (2) その他

5 発言要旨

- (1) 開会

【司会・総合政策局長】

- ・ 定刻になりましたので、ただ今から富山県総合計画審議会の第2回県西部地域委員会を開催いたします。

本来ですと、初めに石井知事からご挨拶申し上げるべきところですが、朝、急に公務が入りまして、若干遅れて到着いたします。申し訳ございません。後ほど到着し次第、区切りのよろしいところでご挨拶いたしますので、会議を進行させていただきたいと思っております。

- (2) 資料説明

<事務局より説明>

- (3) 知事挨拶 石井知事

- ・ 本日、富山県総合計画審議会の第2回県西部地域委員会を開催しましたところ、川村委員長や高橋市長、また、射水の夏野市長や氷見の林市長等々、皆さんお忙しい中をご出席いただきまして、誠にありがとうございます。
- ・ 今ほど事務方からご説明したとおりですが、昨年12月に新たな計画策定について諮問させていただいてから、審議会や各部会、青年委員会といったいろいろな場面で議論していただきました。また、この地域委員会では8月に第1回を開催しまして、県西部の特性や課題について、また、計画全般についてご意見を頂きました。その後も先ほど申し上げたような経過で、県内4カ所でタウンミーティングを行いましたし、

計画骨子案についてのパブリックコメントも実施してまいりました。

- 今日「地域別の特性と取組み」の答申検討案を提示させていただいたわけですが、第1回県西部地域委員会や砺波地区のタウンミーティング等において、高岡・射水と砺波の両地域は連携、協力すべき点は多々あるものの、一方で長年の歴史、文化、それぞれの特色があるので、前回計画と同じように書き分けてもらった方がいいというご要望やご意見が多々ありました。それを受けて、現行計画と同様に高岡・射水地域と砺波地域の2地域として今度の案は提示しております。ただ、同時にとやま呉西圏域連携中枢都市圏ということで西部6市の連携事業も打ち出しているわけですから、こうした両地域に共通する取組みについても記載しまして、県としてサポートしていくという考え方で取りまとめております。
- なお、地域別のところは、あまり詳細にわたりますと、市町村の計画との兼ね合いもあり、また、各市町村をはじめ、いろいろな施策との各論にわたる調整も出てきますので、地方分権の時代でもありますから、なるべく地域別には詳細にわたらない方がいいのだといったご意見も前回計画のときに頂きました。それを踏まえて、今回も地域別については大きな方向性を示す、なるべく簡潔な表現にとどめて、あとは毎年度の予算編成の中でご相談していくということかと思っております。
- なお、県西部地域委員会の開催は今回が最後ですので、皆さまから忌憚のない、また、大所高所からの実効性のあるご意見を賜って、何とかこの10年計画が県民の皆さんから見ても分かりやすく、かつ、実効性のある良いものができるようにしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(4) 意見交換

【川村委員長】

- それでは、先ほど「地域の特性と取組み」の答申検討案などを一括して説明していただきましたが、この後はただ今説明のあった資料の内容に関して、委員の皆さまから忌憚のないご意見を伺いたいと思っております。なお、ご意見はこの委員会の所掌する事項であります「地域別の特性と取組み」に加えて、活力・未来・安心の各分野の答申検討案などについても、幅広くご意見を頂ければと思います。

【桜井委員】

- 資料1の9ページの「活力とやま」のところに「電子部品産業や金属製品産業」とございますが、ぜひ小矢部市の基幹産業であります繊維産業の追加をお願いしたいと思っております。

ご存じかと思いますが、小矢部市には多くの繊維関連企業がございまして、事業所数、それから常用従業員者数において製造業の約25%を占めております。特にゴールドウインはスポーツウエア部門において、もう国内にとどまらず、国外までもその名をとどろかせているところです。知事からも富山県を代表する企業として、東のYKK、西のゴールドウインというお言葉も頂いておりますので、ぜひお願いしたいと思っております。

特に本年11月に本社機能の一部移転として研究開発拠点「ゴールドウイン テッ

ク・ラボ」が整備されたところで、その中でこれまでの製品に加え、人工のクモの糸を使用した製品開発も進めているなど、世界に誇るスポーツウエア企業としてのワールドウインであると、改めてわれわれも認識しているところです。国内外に誇る特色ある製品として、ニット製品がここで取り上げられておりますが、ぜひスポーツウエアも取り上げていただければ幸いです。どうぞよろしくお祈いします。

【林正之委員】

- ・ 3点ほどお願いしたいと思います。まず、資料1の4ページですが、「活力とやま」の大きい囲みの4番目です。「富山湾などの恵まれた自然景観や歴史・伝統文化等の観光資源」とありますが、特に高岡地域については、来年は大伴家持生誕1300年ということもありますけれども、越中万葉がございます。今日は高岡市長もおられますが、高岡には万葉歴史館等もありますし、氷見にも大伴家持の歌碑等が22あって、そこを巡るツアーなどもやっておりますので、越中万葉を活用した観光にも少し光を当てていただければと思います。
- ・ 2点目は、6ページの「安心とやま」の二つ目の囲み記事です。「支援を必要とする人に対する地域での支援体制の充実や社会参加の促進」とありますが、ここに小項目が4点書いてあって、そういう福祉的な観点も大事ではありますけれども、今、特に氷見の方で問題になっているのは公共交通の確保です。公共交通の路線バスが廃止になり、今、三つのNPO組織が4路線でNPOのバスを運行しております。今年度3月でまた2路線が廃止になるということで、新たなNPOの設立を地域で模索しているわけですが、そういった地域での持続的な生活を守るための地域交通の確保といった観点も大事ではないかと思っております。県からも運行支援を頂いておりますが、例えば当初のバスの購入費用などは補助対象になっておりませんので、そういったものにも光を当てていただきたいと思っております。
- ・ 3点目ですが、その下の三つ目に「自然環境や豊かな水環境を保全し、動植物の保護・適正管理を進めます」とありますけれども、クマやイノシシといいますと、私どもとしては保護・適正管理というよりも、まずは鳥獣被害対策が大事ではないかと思っております。氷見市でも昨年度、イノシシについては1100頭余りを駆除しましたが、鳥獣被害の防止と適正管理といった観点で、被害の防止対策もぜひ盛り込んでいただければと思います。

【牧田委員】

- ・ 個別のことについては、特に私から申し上げることはないと思って見ていましたが、少し気になるのが交通体系のことです。前回も若干申し上げたのですが、富山県においての大本の基幹公共交通というのは、私はやはり「あいの風とやま鉄道」だと思っております。先日、富山大学の副学長の中川先生にお話を聞く機会があって、中川先生がおっしゃるには、公共交通機関というのは定時化することが活性化の一番の方策であるということでした。これも実は知事に再三お願い申し上げている話なのですが、知事からはなかなか車両を増やせないという話もお聞きしているわけですが、

やはりあいの風鉄道を15分に1本とか、20分に1本ということで、正時、20分、40分というように定時化すると、利用する人は迷うことなく利用できるというのがデータでもあるようですので、それをさらに強く推進するような項目を追記していただければというのが一つです。

- それから全体的な話で、100にわたる個々の項目があって、これを一遍にやることはできないわけです。当然、優先順位が必要になってくるわけで、ものの道理とすると、大体原因があって結果があるわけですから、例えばサービスを誘致するということになる、その前提条件にはサービス業を利用する人たちのニーズがないといけません。では、そのニーズをつくり出すためにどうするかというと、基幹産業に全国から来られる方々がいて初めて、その交流の中でサービス業の必要性が出てくるというように、必ずリンクしていると思います。そうすると、政策の実行順位もそれに合わせたものにならないと、ミスマッチを起こすのではないかと考えております。その辺の実施行程表のようなものを今回この新総合計画で示すことができれば、さらに画期的な総合計画になるのではないかとということで、そのようなご提案をさせていただきます。

【花島委員】

- 26日に「道の駅たいら」と相倉集落で自動運転車が試験運転をしました。地区の皆さんは大変お喜びで、今、試験運転中でありませけれども、ぜひ実現に向けてお願いしたいということです。よろしくお願いたします。

【大野委員】

- こうやっていろいろな方の幅広い意見を聞いて、それを県の総合計画に反映するという試みは何と素晴らしいことかと思えます。そこから感心しているものですが、いろいろな施策に対しての意見は身近なものになってしまうのですけれども、最近、高岡の街中に出たところ、夕方、大和の交差点の辺りにもものすごい数のカラスの群れがいて、真っ黒になっていました。一番の中心街であった大和の角の交差点は、下を見ると、カラスの糞で四隅が真っ白になっていて、どうしてこんな所にこんなに多くのカラスがいるのだらうと思いました。私は古城公園の近くののですが、古城公園の近くよりももっとたくさんのカラスがいました。きめ細かい鳥獣対策をぜひお願いします。
- 最近、晩婚化・少子高齢化の問題が大変叫ばれておりますけれども、40代の男女の未婚率が結構高いと思います。私の周りにも本当にたくさんいらっしゃいます。昔の風潮では20代はもう嫁に出ていけと言わんばかりに親から追い出されたような時代もありましたが、今は婚活などによって色々方策が推し進められておりますけれども、もっと何か良い方法がないものかと思えます。それと離婚率も高いですし、小さいときからの子どもへの教育、人生設計、それがもう少しなされていったら、そういう風潮も少しずつ良くなるのではないかと。一度に良くなるということはありませんので、そういうことを少しずつ推し進めていただきたいと思います。
- 3点目として、高岡はものづくりの町ですから、これはものづくりでも伝統工芸の

ものづくりの観点ですが、県や市がとても力を注いでくださったおかげで、少しずつ認知されてきています。こういうことは一遍に良くなるということではありませんが、私の肌の感覚では全国的に少しずつ認められてきて、活性化に結び付いているように思っており、若い人たちの意気込みをとてもうれしく感じております。これは今後ともご支援をぜひよろしくお願いしたいところです。

【尾崎委員】

- ・ いろいろ、たくさん見せていただきました。ハードの部分は非常に見やすいので、「ああ、ここも充実してきたのかな」という感じで見ております。ただ、問題は人づくりで、私自身はこのようないろいろな会合に出ましても、非常に女性が少ないことが少し不満です。半分まではいかななくても、やはり4割ぐらいは女性がいてもいいのかなど。やはり決定の場に女性が少ないというのは、非常に問題だと思っています。私自身も社会福祉協議会の会長をしていて、県へ出ますと、女性は私だけです。少しでも女性が出るチャンス、そして決定の場で意見が言えることがとても大事なかなと思っています。
- ・ 富山県は教育県ですので、富山在住、富山の方が結構日本を動かしているのではないかなと思っていますから、やはり帰ってきて、いかに高岡、富山県が素晴らしいところかという私たちの思いを次の子どもたちにしっかり伝えることが大事ではないかなと思っています。自分たちのふるさとを誇りに思えるような富山県であったらということで、この「人づくり」の部分をもっと充実できたらと思っています。
- ・ 10年前の施策がこうだったので、今、その結果がこうになっているというのを、指標ではなかなか見れませんが、ぜひ分析していただいて、「このような形で少し変わりましたよ」「このような形で良くなりましたよ」「これからはこのようにしていきましょう」というソフトの部分をもう少し見えるようにしていただけたらいいかなと思っています。

【村江委員】

- ・ 素晴らしい施策ではないかなと思って見ていました。その中で自分が言いたいこととしては、「未来とやま」の伝統文化の保存と継承というところです。僕自身も県外に出て、氷見に帰ってきたのですが、やはり昔、小さいころに獅子舞とか、在所というか、そういった人と人との触れ合いがあったから、帰ってきたいなという思いが帰ってきました。ということで、伝統文化の保存と継承プラス、これを子どもたちにいかに伝えるかということがまた何か施策であればいいかなと思いました。

【服部委員】

- ・ 私は中身というよりも、この総合計画自身が、私は高岡市の方でも総合計画に参加して、両方を見ているのですが、県と各市町村の関係のようなものが、先ほどの説明にもぶつからないようにというお話がありましたけれども、重ね合わせたときにチーム富山のように合致していくものなのかと。そういうものが関連しているといいのかなと思っています。

- ・ もう一つは、先ほど知事がおっしゃった「分かりやすく実効性がある」という言葉で考えてみたときに、どのような層の方がこの計画を実際に目にするのか、どのような方がこれを参考にして行動されるのかといったことがなかなか日頃からは分かりにくかったのですけれども、この参考資料 3-1 の中に「県民等に期待する主な役割」という項目があって、誰に何を求めているかというのが大変分かりやすく出ていますので、これを指標に私たちは受け止めていいのかなと思っています。

例えばここにある「企業立地に対する理解を県民に期待する」といった言葉を県民が目にするのか、それとも目にはしなないけれども、何らかの啓蒙活動を実行されていくのか、そこが素朴な疑問といえますか、分かりません。ただ、この期待する役割がちゃんとターゲットに届くようなものであってほしいと思ったというのが今日の感想ですし、そこは質問でもあるので、そういうことを教えていただければと思います。

【坂井委員】

- ・ 資料 1 の 9 ページですが、私の地元は庄川で、農産物の方にたまねぎ、チューリップ（球根）、さといも、庄川ゆず等、いろいろ書いてあるのですが、今、頑張っている庄川おんせん野菜をぜひ入れていただけないかと思っております。商標登録も出願中でして、あとはエビデンスも取っているところです。

昨年、庄川温泉郷の方で日本温泉科学会も誘致しまして、そのときに知り合った先生に普通の野菜と温泉を掛けて育てた野菜の違いの科学的根拠をということで、エビデンスも取っておりますし、それから今、県全体でやっています「とやまのおいしい朝ごはん」プロジェクトですけれども、これは 2013 年からやっていて、その後、少し下火になったものですから、今、もう一度地域別にいろいろなメニューを出し合ってやろうということになっており、その中でも庄川おんせん野菜を採用しています。また、加工品も少しずつ作っています。新しくできた道の駅等でも販売しているものですから、ぜひここに庄川おんせん野菜を入れていただきたいと思います。よろしくお願いします。

【大坪委員】

- ・ 資料 1 の 6 ページの「安心とやま」に「支援を必要とする人に対する地域での支援体制」というところについて。今、富山県西部も、貧困などで困っている人たちがどのぐらいいるのか、そういったことをみんなで考えていこうという機運が少しずつ高まっていますが、行政も頑張っていますけれども、行政だけではとても全てに行き届かせることは難しいと思いますので、やはり地域住民がみんなで見守るというような民間によるセーフティネットづくりを進めていくことが重要だと思います。その促進を支援していくということを重要な視点として加えていただきたいと思います。
- ・ また、5 ページの「未来とやま」の 2 番目のところに「質の高い教育を」ということで、子どもたちの可能性を伸ばすということが書いてありますが、やはり子どもたちから自分たちの住む地域の未来をどうしていきたいかを考える、まちづくりに参加していく機会を増やしていくことが大事だと思います。私たち N プロでは防災についても、子どもたちが守られるだけの立場ではなく、自分の役割を見つけていく、例え

ばこういったときに避難所はどのように使ったらいいのかを考えていくようなワークショップをしていますが、子どもたちは柔軟にいろいろなアイデアを出してきます。ぜひ、まちづくりのところに子ども、若い人を主役として入れていく機会を増やし、学校と NPO やまちづくりの現場が連携して進めるしくみを政策としてつくっていただきたいと思います。

- DV 予防についても、中高生については各学校を回ってワークショップを行うなど始まっていますが、小学校からでも、その前からでもできるプログラムがあり、富山では、本当に小さいころからみんなで人との付き合い方なども考えていく、学んでいくというふうになればいいと考え、幼少期からの、こころを育てる教育に力をいれていただきたいと思います。
- もう一つ、一昨日の日曜日に N プロは 10 周年を迎えて、記念のイベントをしました。そのときは石井知事、高橋市長からもお祝い、応援のメッセージを頂きまして、ありがとうございました。県西部を中心として、いろいろなところから 50 名を超える人が集まってくださったのですが、それぞれ、様々な分野のまちづくりに参加している方々で、中には東京からも 3 名の方が来てくださいました。高岡をすごく気に入って、高岡はじめ富山県が舞台となっている映画や小説から女性の生き方にスポットをあて、まちづくりのヒントにしていくワークショップをされています。富山県が物語の舞台になっているのは人口比を考えてもすごく多いそうで、なにかそうなるような魅力があるのではないかとされていました。そこを探りながら、N プロとつながり、来年も高岡でワークショップを行いたいと言っておられて、話し合っています。やはり、人と人のつながりがあって始めて、外の目を持った人がこの富山の地域のことを一緒になって考えてくれるということが促進されていくので、観光でもまちづくりでも、もっと県内外の人の交流を生み出していく施策が重要だと考えます。私たちも 10 年活動してきて、できることがいろいろ見えてきていますから、協力していきたいと思います。
- もう一人、若い女性で健康・ヘルスリテラシーと地域づくりを研究している方も東京から参加してくださったのですが、やはり地域のつながりが高いほど、健康に対する情報の読み取り方等が高いという研究データが出ているそうです。改めて、自治会など地域のつながりを深めて新しい機能をつくっていくこと、また、まちづくりは特別な人たちだけがするものではなくて、みんながやっていけるということ、多様な人が主体となって取り組むことが大事だということを、地域にも入って伝えていきたいと思っています。企業や NPO など、さまざまな団体の方と一緒にまちづくりを進めていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

【稲田委員】

- 先ほどから公共交通、二次交通の話が出ております。交通事業者として、実は 10 年ほど前でしょうか、富山市内で公共交通の利用促進をいろいろ進めておりましたが、なかなか芽が出ずに、路線を見直したり、ダイヤを削ったりといったことをやむを得ずしてきたという経緯があります。

しかしながら、隣の富山市では最近、新幹線の利用者が開業 1 年後に 1 割減ったに

もかわらず、バスの利用者が増えてきて、現在も増え続けているという状況があります。これを高岡地区、県西部に置き換えてみますと、今ほど牧田会頭や林市長からも話がありましたように、やむを得ず NPO に路線を移譲しないといけない状況になっています。これはわれわれの努力も足りないのかもしれませんが、これからも一生懸命やらせていただきますし、また、一番大事なのは利用してもらうことだと思います。利用してもらって、乗ってもらって残すということと一緒に取り組んでいきたいと思っております。この資料とは少しずれるかもしれませんが、そのように思っております。

- それと、参考資料 1 の 24 番の世界で最も美しい湾クラブについてです。富山湾は本当に素晴らしい景観だと思っております。私は県全体の経済団体で地域創生委員会に所属しております。富山県に地域創生、地域を活性化するために何が必要かということの研究しており、先日、先進地を視察してまいりました。実はしまなみ海道という、広島県の尾道市から四国の今治市までの橋があって、そこではサイクリングロードが 72km にわたって整備されているのです。これは元々道路橋であったものを、少し幅を縮めて、そこにサイクリング専用道路を造ってきたということで、その地道な活動を始めて 10 年ほどたつと言っておられましたが、それが結果的に世界的なサイクリングの聖地になって、今、Instagram 等で発信することによって外国人、特にフランスやアメリカからの観光客が非常に増えているという状況です。

このようなことが富山にもできないかと思っております。今回は県西部地域委員会なので、氷見の方から射水の方まで素晴らしい景観と、今、高岡市に道の駅雨晴ができますが、そういうターミナル的な要素も兼ね備えたところが既にあるわけです。これをやはり検討して、この県西部として売っていかねばいけないと考えており、お願いしたいと思っております。実はこのしまなみ海道ですが、5 年間で観光客は 9% 増え、そのうちの 1 年間で外国人は 1.5 倍になっています。こういう組織ができたのは昨年なので、昨年から今年の 1 年間で 1.5 倍になっているということで、これは非常に富山県にぴったりの施策だと思いますから、参考資料の 24 番についてももう少し踏み込んで、具体的なものにしていただきたいと思っております。

【夏野元志委員】

- まずはこの総合計画ですが、先の会議でも多様な意見があった中で、それぞれ対応しながらまとめていただいたことに御礼申し上げたいと思っております。細かい話は少しと言いつつも、気になった点だけお話しさせていただきたいと思っております。
- まずは「活力とやま」で、道路ネットワークは今後もいろいろと整備が必要だと思います。例えば高岡土木センター管内と富山土木センター管内をまたぐような道路の整備という話になったときに、うまく話がつながらないといいますが、そういったケースもあるかと思っておりますので、そういった面もまたご配慮いただきたいと思っております。
- また、6 ページに「農地防災事業の推進と施設の適切な維持管理」という記述があって、今現在、庄川左岸地区で事業が行われているということで括弧書きで書いてあると思うのですが、やはり先を考えていくなれば射水地区も、今ちょうど東部、西部、中央と排水機場の長寿命化について国の方で事業を行っていただいております。老朽

化によって機能が低下した部分を長寿命化していただくことで、機能もある程度回復するのではないかと期待しておりますが、昨今、非常に強い雨が降る状況の中で、今の排水機場の能力そのもののキャパを超える雨も最近は増えてきています。そういったことを考えますと、先を考えますと、やはり射水における排水機場の例えば機能強化とか、この間も国営、県営のいろいろな事業で乾田化を進めていただいていたわけですが、そういった部分も今後は少し見直しを図っていくことが必要になる時期があるのではないかとということで、お話しさせていただきました。

- ・ あとは全体の部分で、先ほど大坪委員からもお話がありました、やはり児童の貧困問題を非常に大きな課題として捉えているところです。状況をいろいろ調査していきますと、その要因が非常に多岐にわたっておりますし、それぞれが複雑に絡み合っているような状況の中で、市行政としても地域やいろいろな関係団体と連携しながらのサポート体制は取っていきますが、恐らく今後、例えば専門的な知識のあるスタッフであったり、場合によってはそういったものをしっかり拠点として担っていくものが必要になってきたりするのではないかと。こういった面になりますと、やはり一自治体ではなかなか対応し切れない部分がありますので、県としても今後はこういった面を念頭に置いて、いろいろご検討いただければと思います。

【川村委員長】

- ・ ありがとうございます。半分の方にご意見を頂きました。この辺で知事からコメントをお願いしたいと思います。

【石井知事】

- ・ それぞれ貴重なご意見を頂き、ありがとうございました。最初にあった繊維産業も大事だという点は全くごもっともです。多少は触れてあったのですが、せっかく研究開発拠点も改めて造っていただいたりしているので、おっしゃるように9ページではもう少し繊維産業の位置付けを明確にしたいと思います。
- ・ 次に、越中万葉をもっと観光の面で活かすべきだというお話がありました、それも大事な視点だと思いますので、そういった考え方はもちろん持ってはいるのですが、しっかりと読み取れるようにしたいと思います。
- ・ また、公共交通が大切である、地域交通の確保が大事であるというのはごもっともで、こちらは6ページについてのご指摘として頂きましたが、活力の4ページでも例えば「新高岡駅及び高岡駅を核とした地域公共交通ネットワークの充実」など、幾つか公共交通のことに触れています。もう少し今のような視点で、活力の方でも大事ですが、安心のところから角度を変えて言及することを考えてみたいと思います。
- ・ それから、確かに鳥獣被害対策については、この「管理の強化」の中に駆除なども含めて書いているつもりなのだと思いますが、一般の方から見ると、なかなか隔靴搔痒の感がありますので、鳥獣被害の防止対策といった、もう少し明確な視点も入れておきたいと思います。一方で、鳥獣保護が大事だというご意見の方もおられますので、そうした点もよく念頭に置いて、特にイノシシなどは明らかにどんどん増える傾向にありますので、しっかり対応するというところで、ここにもそうした視点を入れたいと

思います。

- 大学の先生のお名前が出ましたが、中川先生のおっしゃる定時化、パルスダイヤについては私も何度もお伺いして、大変良いというか、そのとおりになれば素敵な考えだと思います。稲田さんのような専門家もおられますが、例えば東京の山手線のようにお客さんが多ければ、定時化にもコスト面も含めて対応しやすいのですが、現実にはなかなかそうはいかないとなると、最終的に県がお金を出すといっても、結局は県民の税金で出していることになるので、何らかの形でコストパフォーマンスを考える、まさにそういう面での優先順位もあると思います。これは今後も地域ごとの特性を踏まえながら、なるべくパルスダイヤ的な考え方も入れるというのは大変魅力的なのですが、今後もよく勉強していきたいと思います。
- あと、行程表という話がありましたが、この計画が2月ごろにまとまると、それを受けて、富山県としての平成30年度予算編成もそれに合わせて作るわけですが、その後、一種のアクションプランというか、「この予算はこの計画をこのように受けて作っているのですよ」と今後の展望にも少し触れるということ、前回計画のときにもやっていますけれども、今回もそういったことでなるべく分かりやすくしたいと思います。先ほども一般の県民にどう伝えるのかというお話がありましたが、多くの方にこの分厚い資料を全部読んでくれるというのは無理なので、一種のPR版といいますか、今回の新たな総合計画の一番のポイントを、できるだけ県民の皆さんから見て身近に考えていただけるようなことを中心としながら、また、県政全体の方向も分かるようにまとめたものを作ります。それによって、できるだけ多くの県民の皆さんにご理解を深めていただくと同時に、参加していただくという方向を目指したいと思っています。
- それからカラス対策については、これも大事なことですので、今は権限が基本的に市町村に移っているのですけれども、また各市町村と相談しながら考えていきたいと思っています。
- また、男女の未婚率が高まっていること等についてお話がありましたが、ライフプラン教育がやはり大事だと思っていて、今までは高校生の方々ぐらいを中心に考えていたのですが、最近では中学生、あるいは小学生の段階でも、それはもちろんお子さんの成長段階に応じてどこまでということがありますけれども、ライフプラン教育的なことをなるべく早くやるべきだというのはおっしゃるとおりです。今度の地域別はともかく、全体の「人づくり」などにはそういう考え方が確か盛り込まれていたと思いますが、そこはもう一度確認して、そういう考え方を明確にしたいと思います。
- 女性の参加率をもっと高めてほしいというお話もありました。県全体では平成33年ごろを目標にして、審議会の性格にもよりますが、県の審議会については少なくとも4割ぐらいは女性に参加していただくようにしたいと思います。今でも審議会の性質によっては、半分強が女性の審議会も確かあったと思います。今回の総合計画については、例えば今日のこの地域委員会の出席は約3割が女性で、もう少し参加率が高まればなお良いのですが、なかなか各分野の代表の方となると……。ただ、徐々にいずれはそういうことになるのではないかと思います。また今後も努力していきたいと思っています。

- ・ それから、若い人のUターン率が非常に高まっており、Uターンどころか、あまり縁がなかったのに富山に移住してくる方も増えていて、8~9年前に200人ぐらいだったのが、今は昨年だけで565人で、今年はもっと増えると思います。かつ、そのうち20~30代の人が7割ぐらいなので、そういう意味では若い人や女性に選ばれる県になりつつあると私は思っています。ただ、男性と女性に分けると、女性のUターン率が低いのです。それはやはり女性が魅力を感じるような働き口が必ずしも見つからないのではないかというイメージがあることも、一つの原因だと思うのです。

そこで、今、富山県はものづくり産業が盛んですから、そういった経営者の皆さんに私自身が直接お尋ねすると、商品企画や営業等のいろいろな面で女性に大いに活躍してほしいと思っている経営者は結構多いのです。こういったことを改めて東京をはじめ、大都市地域の大学などにいる女性の皆さんにアピールするということで、そういう意味での女子カフェも3年ほど前から開催しており、徐々に効果が出ているかと思えます。さらに努力していきたいと思えます。

併せて、今度、県総合デザインセンターを中心に高岡にデザイン交流創造拠点を設けるということを打ち出しています。こういった分野もそうですし、できるだけデザインや工芸、商品企画など、男性だけでなく女性も魅力を感じる職種を増やしていくことも大事で、そういったことも時間はかかりますが、努力していきたいと思えます。

- ・ 獅子舞などの伝統文化はおっしゃるとおり大事だと思いますので、少し触れてあるのですが、心掛けてまいります。
- ・ おんせん野菜は庄川で大変頑張ってもらっているので、エビデンスも取っていらっしゃることを大変心強く思います。また、お話に出た「とやまのおいしい朝ごはん」には随分力を入れたので、それなりに効果があったのですが、これも関係のレストランのシェフやホテルの方針などいろいろなことがあって、なかなか強制はできない面があります。ただ、坂井さんのように大変意欲を持って取り組んでいる方がいらっしゃるは大変心強いので、またこうした動き、機運が高まるように、さらに努力したいと思えます。
- ・ それから、お子さんの貧困の問題も出ました。こういった点はわれわれとしても気に掛けて、学校にスクールカウンセラーだけでなくスクールソーシャルワーカーや専門家も配置して、取り組みをこの数年間にやっています。夏野市長もおっしゃいましたが、子どもの貧困にはいろいろな要素がありますから、この点は政府でも検討していただいているので、国の政策等とかみ合わせてしっかり取り組んで、もちろん国・県・市町村がそれぞれ役割分担をしながら努力していきたいと思えます。

また、いずれにしてもお話に出たように、まちづくりに大変熱心にNPOなどで活動されていることには敬意を表したいと思えます。

- ・ あと、サイクリングの話が出ました。富山県は世界で最も美しい湾クラブへの加盟が承認されて以来、3年前から湾岸サイクリングを開催し、私自身も参加しています。今は88kmの湾岸サイクリングなのですが、できればこれが100kmを超すぐらいにして、氷見の県境から朝日町の新潟県境までうまくつなげられないかと思っています。ただ、間にトンネルなどがあつたりして、安全の問題もありますから拙速にやってもいけません、できるだけそのようにやりたいと。また、今は車と兼用の所が大部分

ですが、少しでもサイクリングの専用道路を増やせないかということで、予算も平成29年度当初予算に付けております。来年度以降も、これは地元市町村のご要望も伺いながら、そういうことに力を入れていきたいと思っております。

- ・ その他、農地防災の長寿命化の話が出ました。特に射水の排水機場はかつて大規模な事業をなさって、あそこまで行っているのですが、お話のような問題はありますから、この点は地域計画のところはどう表現するか、またよく考えてご相談したいと思っております。

【川村委員長】

- ・ ありがとうございます。引き続き、意見交換を行います。

【寺下委員】

- ・ 今ほど知事にいろいろお話いただきましたが、私も公共交通は大変重要な観点であると思っております。この4ページにも書いてありますが、乗継ぎの円滑化については、例えばわれわれは氷見線に乗ってもらうためのイベント等々をやっているわけですが、やはり乗りやすいダイヤというものがあるかと思うのです。今、知事におっしゃっていただいたように、そういうことをぜひ進めていただければ、現状でもダイヤを変えるだけでももう少し利用率がアップすると思うので、それを通じて稲田さんのところのバスの利用率も上がるのではないかということで、そういうことをぜひ検討して、間に入って進めていただければと思っております。
- ・ もう一つは大ゴールデン回廊についてですが、これも非常に大きな意味で重要だと思うのですが、併せて港湾の大事さも実は感じております。前回も少しお話しさせていただいたのですが、港湾からどのようなアクセスを取ればいいのか。特に私は氷見なので、物流やクルーズ、今ほどのサイクリングの件もそうですが、湾岸道路をしっかりと整備していただきたいと思っております。特に伏木富山港から氷見に向けての湾岸道路は、少し氷見のところでややこしい部分もあるのですが、これがしっかりとすることによって、いろいろな面で効果が生まれるだろうと感じております。前からいろいろな話が出ているかと思うのですが、ぜひ再考いただければと思っています。

【林説則委員】

- ・ 以前にも要望、お願い致した経緯もあると思っておりますが、商工会組織にとって長年の夢であった小規模企業振興基本法が平成26年6月に成立致しました。現在全国には382万社の企業がありますが、381万社が中小企業であり、その内325万社が小規模企業であります。正に日本を支えているのは中小事業者であると言っても過言ではありません。県内においても約3万7千社の全企業数の内、約86%を占める約3万2千が小規模事業者であります。人口減に伴い働き手の不足や販路の縮小、経営者が高齢化する中で引き続き厳しい経営環境にあります。今、政府も生産性革命と人づくり革命の2本柱で我が国の今後の経済成長を支えると聞いております。

貴重な総合計画の答申検討案も全部読み尽してはいませんが、全てが着手できれば最高と思っておりますが、そんな簡単な訳にはいかない事は十分理解はできます。学識経験

者のご意見も参考にし、魅力有る富山県になるよう期待したいものです。

- ・ 今、定住人口の増、海外又は県内外よりの観光客の入込による活性化も重要になっている今日、是非かつての各商店街を復活、賑わい創出に力を注ぐ必要が多分にあると思われまます。是非ご理解承りたいと思います。

【八十島委員】

- ・ 前回のこの委員会におきまして私の方からご提言申し上げたいいくつかの事項に関しましては、先ほどの事務局の説明の中で、各々ご対応いただいております、その点については問題がないことを確認いたしました。
- ・ 次に、全体で100項目にわたるこの政策案は、重要な意見を多面的に集約することで全面的に網羅された内容となっておりますが、優先順位の観点におきましても「富山の価値創造戦略」として経済・文化両面において重点戦略テーマが設定されており、産業面の重要課題でもある強い産業の育成や新たな価値創造、県内企業の海外ビジネスやブランド力の強化、さらにはグローバル社会における地域づくり・人づくり等においても堅実な対応を読み取ることができます。
- ・ したがいまして、次にポイントとなるのは、やはりこの計画の方針展開に関する点でございます。先ほどの委員の方のご発言にもございましたが、富山県のこの計画が、各市町村や自治体にどのような方法にて方針の展開を図っていくのかという点と併せて、ひいては県民全員が一つのベクトルのもとに取り組んでいくことができるような、そのような仕組み作りが重要であろうと考えています。
- ・ この計画の中では「県民参考指標」は5年後および10年後の設定となっておりますが、やはり予算を踏まえて実現していくため、例えばKPI（重要業績評価指標）のような観点に立って、1年サイクルの指標に応じてチェック・リカバリーするというように、企業においてPDCAのサイクルを回すような仕組みを導入し、継続して推進していくことによってはじめて、5年後、あるいは10年後の節目の時期には、所期の目標達成に到達できるのではないかと考える次第であり、この点に対しても堅実な対応をお願いするものであります。

【明石委員】

- ・ 私は2010年に東京から戻ってきて、富山市にいたのですが、昨年に射水市に移ってきました。元々、地域づくりの仕事をやっていたので、日本全国各地津々浦々見えてきた中で、富山県の中でも特に県西部は歴史・文化だけではなくて、生活、そのまま暮らしそのものが外から見ると素晴らしい資源で、皆さんが当たり前に行っている暮らしは外から見るとものすごく宝物という暮らしなので、そこが本当に素晴らしくて魅力であると思って、前々から富山に住んでいたのですけれども、射水に引っ越してきました。
- ・ 射水に事務所を設けて、新湊の内川の近くですが、内川沿いの景観に非常に衝撃を受けて、5歳から高校生の間は富山市で過ごしていたのですが、まさか富山市の隣にこんなに素敵な景観の地域があるなんてと思って、本当に衝撃を受けました。そこからいろいろな活動をする中で、仲間ができて、少しずつですが、空き家を活用した魅

力創出をそれなりに頑張っていますけれども、1年半の間に、うちの近所で家が50軒ぐらい壊されています。ずっと好きで通ってきたのですが、この5年間に明らかに好きだと思っていた景観がまざまざと崩れていくのを見てきました。この計画は10年ぐらいのスパンのことを考えておられると思いますが、このままいくと、本当にこの景観はなくなってしまうのではないかと思いますし、これは景観という見た目だけの問題ではなくて、皆さんの暮らしが壊れているということでもあります。あとは移住・定住を勧めるということもありますが、その中で移住者、よその人が「ああ、これは魅力だな」と思う魅力自体が失われていくことになってしまうのではないかと、すごく危機感を持っております。

もちろん、私も民間事業者の一人ですから、自分たちができることはやっていくつもりですが、富山県という県内の自治体を取りまとめる立場からの計画ですから、景観とか、地域の本当にベースとなるような資源についての覚悟のようなものを持っていただきたいと思います。観光するにしても、その場所がどんどんなくなっていってしまう。例えば「船が100隻あったのに、今は50隻しかなくて歯抜けだな」とか、やはり同じ売りとはいっても、どんどん変わっているところがあるということを改めて考えていただいて、それで次の10年に向けて本当に覚悟を持って守っていただきたいと思います。もちろん、私たちも頑張るつもりですが、そのように思いました。

- ・ もう一点、女性活躍という話がたくさんあって、こういう場で語られることもありますし、私もいろいろなところに行って、いつも思いますが、働き方や働きやすさに対する支援のような話はあるものの、実はその女性たちが、例えば出産前など、一回お休みする前にちゃんと技術や一生戦える武器の基本となるものを社会に出てからつくれているか、具体的に言うと5年間とか、そういう中でしっかりつくれるだけのことを社会に出てやれているのかは、非常にいつも疑問に思っております。武器は一生かけてつくって行って、社会に貢献していく人材になっていくのだと思うのですが、そのベースとして何かふんわりと、「とにかく社会で頑張るね」「そして、ある時が来たら子どもを産んでね」という形ではなくて、「子どもを産むためにはこの5年間が非常に大事だから、このように育てね」というぐらいの覚悟、気合いが必要ではないかと思っています。

【小泉委員】

- ・ 私は地域の婦人会として、地域で地域の活性化や地域が元気になるように一生懸命頑張っている団体です。しかし、最近の私たちの活動というか、地域の活動に参加される方がほとんど決まってきました。元気な高齢者の方がたくさん出てこられるのはすごくありがたいですが、中間層や若年層の地域活動への参加率がだいぶ低くなっていて、若い人たちは忙しいのだろうとは思いますが、もう層がはっきりしてしまって、関わりがあまりなくなってきました。やはり分け隔てなく、いろいろな層の方が地域活動に参加できるような環境づくりをしていきたいと思っています。
- ・ もう一つは女性が働きながら育児、子育てをしていくことについて、先ほどからもいろいろ出てきていますが、やはり一回出産してしまうと、元の仕事に戻るのはなか

なか難しいという現実があって、パートに切り替えたりしています。その辺の支援と
いうか、働いている女性に対しての子育ての環境づくりを一生懸命やっていくのは分
かりますが、一方で企業に対しての支援はどの辺までできるのかということがありま
す。先ほどからも言うておられるように弱小企業が多い中で、こういう政策は大企業
に対しての「こうしろ、ああしろ」ということがたくさんありますが、弱小企業にと
ってはこの政策を受け入れるのはなかなか難しいと思うのです。女性が出産してから
も元の仕事に戻り、そして働き続けることができるためには、やはり受け入れる側の
企業がしっかり受け止めてくださらないと働けないと思いますので、企業に対しての
支援も考えていただきたいと思っています。

【高橋委員】

- ・ まずもって第1回で申し上げた福岡インターの早期無料化、小規模零細企業の従業員不足の解消・確保についての意見には早速対応していただいているということで、その点にまず感謝いたします。
- ・ また、高岡やぶなみ駅の新設と周辺整備に取り組んでいただいていることに、県西部として誠にうれしく思っております。私が住んでいるのは小矢部市の福岡境なのですが、あいの風とやま鉄道の石動駅と福岡駅の間は、先ほど牧田委員もおっしゃいましたけれども、県内でも一番長い区間です。私たち間にいる者の実情としては、私の父も、私自身も、私の娘も高岡の高校に通っていましたが、実際は福岡駅まで自転車ということで、娘にも自転車を買い与えたわけですけれども、なかなか遠いのです。小矢部市も人口増への取組みをいろいろしていますが、思いきってその間に駅を設けることによって、利便性の確保はもちろんのこと、それが人口増にもつながるのではないかと考えています。

例えば JA いなばも小矢部と旧福岡町で形成しており、非常に地域も一つになって
いると思います。高岡・射水地域と砺波地域というように分けられないところもあっ
て、旧福岡町とは非常に密接なところもあります。地崎が地域の真ん中だと思ってお
り、アウトレットにも非常に近く、8号線も近いですし、福岡インターや大滝工業団
地なども非常に近いので、例えば駅を造るといって、当然、費用対効果や人口比率が
非常に少ないところであるとは思いますが、いま一度、一考をお願いしたいと
ころです。

【北村副委員長】

- ・ 私から見ていて、「安心とやま」の健康寿命日本一、災害に強い日本一安全というの
に加えて、もう一つ、マスコミを通じて何か日本一をつくれないうちかと思いま
した。10年間で、これが富山県の全国に誇る日本一であると。美肌日本一はありますが、も
っとそういう宣伝をして、Iターン、Uターン、子育て等のいろいろなことを言っても、
結局は人口が増えないとどうしようもありません。そうすると、出て行ってもいいで
すが、出て行ったら帰ってくるように、広告にどんどんキャッチフレーズ、県知事の
顔を出してどんどん宣伝して、美肌に勝るとももっと良い日本一をつくれたらと思っ

ています。今すぐにやれというのではなくて、10年後を目標にして、10年後に「ああ、これが日本一になったな」というものを目指して、県の優秀な方々に知恵を出していただき、ぜひ「これは富山県の日本一だ」というものをつくっていただければありがたいと思います。健康寿命や安全の日本一というのは、もう各都道府県でいろいろなことをやっています。ですから、富山県でしかない日本一を目指す総合計画をやってほしいと思います。

【清水委員】

- ・ 私は観光ガイドですから、このような立派な会合の中で皆さんいろいろな意見を言っていると思いますが、観光分野だけということでお話ししたいと思います。

今、観光ガイドは高岡市に120～130名いるのですが、正直に言って、高齢化しているのです。これは各地区の方に聞いても、ほとんどが高齢化しているということで、何とか若いガイドを養成していかなくてはいけないのですが、今までは口コミで「どうですか」と言っていました。高齢化している人の口コミの相手はやはり高齢化している人しか対象にならないので、やはり若い人というときには、もっと広い分野で、いろいろな形で、行政やいろいろなところでもっとPRしながら養成するような組織体をつくっていただきたいと思います

- ・ 私たちガイドは、ある意味では生の宣伝マンだと思っています。来られたお客さんとは直接話ができますし、それぞれの地区のPRは、文章では書いていない、生の地元の人しか知らないところも話をしながらガイドをしています。何とか少しでも盛り上げていきたいということで、実は北陸大会が年に1回開かれていて、それは福井県と石川県と富山県を順番に回ってきて、本部は金沢にあります。今年は石川県の七尾でやったのですが、今度は富山県なので、県にどこかの市町村を紹介してほしいと打診したところ、「そういった協議会もないですし、こちらとしてはそういう紹介はできません」と門前払いだったそうなのです。それで非常に困って、各行政に頼んでも駄目だということで、今回、私たちあいの風に直接、「何とかしてもらえないか」という声がありました。

今、高岡は歴史都市、そして観光に一生懸命力を入れているので、ここで断るわけにはいかないだろうということで、観光グループが六つありますから、これを機に連絡協議会をつくり、今度の富山県高岡大会を何とか盛り上げていきたいと思っています。しかし、何しろ私たちガイドグループだけではとてもできなくて、やはりこれはいろいろな形で行政とか、それから商店街や工業の方などにも協力していただかないと、恐らく成功できないのではないかと思います。また、今回は高岡なのですが、これからも3年に一度、県のどこかの市町村にまた声が掛かると思いますので、そのときのためにも、私たちガイドグループも一生懸命やりますが、ぜひバックアップしていただきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

【高橋副委員長】

- ・ 今回は冒頭にお話がありましたように、この高岡・射水・氷見の地区と砺波地区の合同の委員会となっていると思います。この「地域を超えた取組み」というところも

わざわざ書いていただいて、委員会の対象エリアの取組みを念頭に置いていただいていることは大変ありがたいと思っております。

- ・ この地域は先ほどお話がありましたように、交通ネットワークが大変張り巡らされている所で、東西には東海北陸・能越自動車道、氷見線や城端線、そして北陸新幹線、あいの風、国道8号線、万葉線といった大変豊かな交通資源に恵まれております。また、海に面した港もありますので、山から、内陸から港へという、非常に恵まれた環境にあると思います。そこには富山呉西圏域ということで6自治体があり、みんなで一緒にやっつけようという取組みも、今、進んでいるところです。そういう観点から大きく3点についてお願いといたしますか、思い出していただきたいと思っております。
- ・ 1点目は、今、お話し申し上げました交通の観点です。それぞれ道路や鉄道がありますが、例えば高岡駅で幾つかのものがつながっているといえはつながっている、あるいは例えば氷見線や城端線のように切れているとも思えるわけですし、あるいは新幹線の新高岡駅でも新幹線と城端線、あるいはそこにつながるバス路線といった、こういう結節点でのつながりが大変大事ではないかと思っております。先ほどから乗継ぎ利便、あるいは結節点の機能強化といったお話も出ていますが、ぜひこの点については積極的な取組みをお願いしたいと思っております。

併せて、例えば港を取り上げてもらうのですが、ハードの整備と実際にどのように利用するかということはセットです。ぜひともその辺の取組み、また、記述についてもご精査を賜りたいと思っております。

- ・ 2点目は、この圏域でのいわば中核施設が必要ではないかということです。その中でも一つ目には圏域内の交流拡大、あるいは産業や文化の振興に寄与するような公益的な中核施設を、これはぜひ県立といいたしめようか、県の方で整備をお願いできないだろうかと思っております。県下全体を考えますと、ちょうど物理的にも中心にある富山市周辺にいろいろな県の施設が集中しがちですが、この県西部圏域は人口で言えば四十数万人ということで、富山県のほぼ半分を有している地域ですし、交通利便性も大変高い地域です。ぜひとも公益的な中核施設を県の方でご検討いただけないかということです。

この点での二つ目は、先ほど知事が触れましたデザイン交流ゾーンの構築についてです。既に県、あるいは市の施設も整備されているので、またデザイン交流ゾーンの構築を進めていただきたいと思います。

この点での三つ目としては、これは高岡の話になってしまいますが、高岡にはものづくり関係の研究開発機能が集約されつつあります。それに加えて、今、富山大学などでも先端材料研究のための拠点、センターの構想をお持ちですので、これを誘致しまして、高岡圏域、あるいは県西部圏域、そして県内のものづくり研究開発拠点の確立を目指していただきたいと思います。

- ・ 大きな3点目ですが、先ほど来から地方創生・地方定住というテーマが幾つか出ております。たくさんの課題がございますが、その中の一つの課題は、やはり高校卒業後に多くの方々が首都圏なりに出てしまわれることです。これは高等教育機関、大学などへの進学のためと思われれます。そういう意味で、高校生の受け皿となる県内の高等教育機関・機能を強化していただきたいと思います。この圏域内にも大学が

幾つか存在していますが、これらの入学定員の確保・充実等について、なにがしかの記述をお願いできればと思っています。

- ・ 以上、3点について申し上げました。よろしくお願いいたします。

【齊藤オブザーバー（夏野修副委員長代理）】

- ・ 今日市長が海外出張で出席ができませんでしたので、オブザーバーという立場ではありますが、市長からの伝言も踏まえて発言させていただきたいと思います。

- ・ 最初に、市長から前回の委員会で幾つか提案させていただきました意見については、総合計画への追記を検討していただいたもの、また、既に対応していただいているものがあるとお伺いしておりますので、まず感謝したいと思っております。

その中で、今ほど高橋市長からも触れられましたが、総合計画の地域区分については現行の4区分を維持していただくよう提案しております。これについては当初は県西部では高岡市のみの開催でした知事のタウンミーティングを、砺波市内においても開催していただき、感謝を申し上げたいと思います。当日は砺波圏域から250名余りの方に参加していただき、地域区分についてのご意見をはじめ、県政についてさまざまな角度から多くの意見を頂きました。その中で知事からは、関係の皆さんのご意見をくみ取って現行の4区分を維持するとのことご発言を頂いており、改めて感謝を申し上げます。

- ・ 砺波市としても、砺波地域の特性を活かした取組みをさらに進めるとともに、これからも県西部6市がとやま呉西圏域連携中枢都市圏としてしっかり連携して、圏域全体の発展に寄与していきたいと考えておりますので、これからもご支援をお願い申し上げます。

【工藤オブザーバー（田中委員代理）】

- ・ 今、砺波市からご発言がありましたように、地域区分は定着している現行の区分を維持していただくということで、大変ありがたく思っております。御礼申し上げます。その上で、地域を超えた取組みについては、県西部で連携を図って解決していきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

【川村委員長】

- ・ ありがとうございます。それでは、これまでのご意見・ご発言に対して、知事からコメントを頂きたいと思っております。

【石井知事】

- ・ それぞれ貴重なご意見をありがとうございました。公共交通の乗継ぎの問題が寺下委員などから改めて出ましたが、これは今、富山県地域交通活性化推進会議というものをやっています。これは交通事業者の方や交通問題の全国的な有識者の方、それから自治体の方にも代表で入っていただいております。特に乗継ぎの問題については、あいの風鉄道の社長である日吉さんに小委員長になってもらって、各論で具体的な検討を進めておりますので、そうした議論の結果も踏まえながら、しっかり対応したい

と思っています。もちろん、これは市町村にもそれぞれ役割を果たしていただかないといけません。

- また、湾岸道路の整備はかねてから一つのテーマであり、富山湾岸沿いの道路も相当整備されてきてはいるのですが、まだ幾つか県内に、例えば呉西地区もそうですし、それから新川地区などでもまだ課題がありますので、これは逐次、国の公共事業などの配分の問題もありますけれども、しっかり取り組んでいこうと思います。今でも進めています、努力してまいります。
- それから、呉西地区の商店街の活性化については、私もこの13年間、各市町村と相談しながら、各地区の商店街を何とか活性化できないかということで努力してきましたし、幾つかの商店街では本当に自助努力も随分なさって、成果も出ていると思いますが、日本全体の問題でもあります。人口減少が続く中、それぞれの商店街をどう位置付けて、また、ある面では再編していくかといったことも大事だろうと思っています。
- 八十島さんがおっしゃったように、いずれにしてもPDCAサイクルを回すというのは全くそのとおりで、先ほども申しましたが、これまでも毎年度の予算編成の際に必ず総合計画との関係をチェックして議論していますし、また、予算編成後には総合計画との関係を、毎年、進捗のチェックをしており、その結果も対外的に発表するようにしていますので、今後もそれは心掛けていきたいと思っています。
- あと、内川周辺は本当に素晴らしい景観で、この間、「人生の約束」という大変素晴らしい映画もできましたし、ぜひ存続していけばうれしいと思っています。この点については夏野市長や牧田会頭もおられますので、地域からの盛り上がりがまず基本だと思いますが、県としてもお手伝いできる点があればと思っています。例えば新湊マリーナに相当おしゃれなショップを作ったり、クラブハウスを作ったり、この間はタモリさんがいらして「随分と富山県は思いきったことを次々にやってくれるな」と言って大変喜んでくださったくらいです。ぜひ内川も、そういうものとの関連でどのように持っていくか、これはまず何と言っても射水市のお考えもお伺いして、考えていきたいと思っています。
- 清水さんはガイドで随分汗を流していただいているようで、敬意を表したいと思います。その北陸三県の持ち回りの件は私は初耳ですが、高橋市長もいらっしゃいますし、市町村の皆さんのお考えもお聞きしながら、また、県全体の取組みとしては「とやま観光未来創造塾」にガイドコースを設けたり、さらにグローバル化の時代ですから、英語や中国語で案内ができる本当のプロのガイドの養成もしたりしています。おっしゃるようにガイドの役割は結構大きいと私は思っていますから、できるだけ市町村の皆さんと連携しながら、こうした分野にも力を入れていきたいと思っています。
- 高橋市長からもいろいろお話がありました、公共交通の高岡駅、新高岡駅は結節点、要所でもありますから、ここと道路やバス交通も含めて、また、城端線・氷見線の問題もあるので、こういったことはまたご相談しながら進めていきたいと思っています。
- また、広域的な中核施設を県立で造ってほしいというお話もありましたが、これはなかなか頭が痛い問題です。例えば先ほどのお話に出ていたデザイン交流ゾーンの中核は、能作さんもありますが、何と言っても県総合デザインセンターです。あまりお

気付いてない方もいらっしゃるかもしれませんが、県総合デザインセンターはかなり国際的に知られた場所になりつつあり、あそこを今回は一段と強化しました。ここと、あとは全国的にも著名なウィン・ディーさん、日南グループとの連携も図って、進めていきたいと思います。

それから、富山県ものづくり研究開発センターが二上にございます。あそこを利用する県内企業は280~290社ぐらいありますが、東証一部上場で東京、大阪、名古屋に本社があって「ぜひ使わせてくれ」と言って使っている企業は200社を大きく超えています。そのぐらいの施設を高岡に入れているわけです。ここで議論をすると、皆さん当然だと思われるでしょうけれども、東の方で議論すると、「どうしてあの施設を西に造ったのだ」と少し不満げにおっしゃる方もいるぐらいですから、こういうことも含めて、ぜひ県下全体を見ながらバランス良く対応していきたいと思います。

- また、大学の問題についてです。地方大学の振興及び若者雇用等に関する有識者会議を政府がこの2月に立ち上げて、私もそのメンバーとしていろいろ発言させていただき、何とか富山県の大学もその対象にしてもらおうと思っておりますが、大学自体もまた自助努力を大いにしてもらわなくてはいけないので、そういったことも含めて、大学関係者ともよく相談しながらやっていきたいと思います。ただ、県立大学については、ある意味では県自身がつくった大学で、この4月から医薬品工学科をスタートさせ、来年4月からは知能ロボット工学科、1年半後には4年制の看護学部をスタートさせる予定です。今後も努力してまいります。
- 地域の4区分については、お話に出たように前回いろいろご意見を頂きましたので、なるほどごもっともということで4地区にさせていただきました。ただ、同時に砺波地区と高岡・射水・氷見地区の連携ということで、とやま呉西圏域連携中枢都市圏でもありますから、今後もそうした点にも配慮しながら進めていきたいと思います。
- また、小泉さんなどから、出産後になかなか元の職場に戻りにくく、そのためにパートをやむを得ずやっている人が多いというお話もありました。これは今、女性活躍推進法もできたので、企業の皆さんにも呼び掛けて、これからは生産年齢人口がどんどん減っていきますから、やはり女性や高齢の方にもっと活躍していただかないと、今の生活水準もなかなか維持できない時代になっています。これは企業側にも配慮をお願いし、また、企業がそうしたことをしやすいように、国と一緒に考えて対策も考えていかなければいけないと思います。
- その他、新駅の話もありました。これまでの10年ぐらいの間にニーズ調査を2回して、何とか成り立つのが高岡やぶなみ駅、東富山・富山間ということで進めてきました。これは高橋市長も努力されて、また、地元の方も協力されて、高岡やぶなみ駅の方は割合順調に進んできています。その先となると、今後の各地域のまちづくり、また、県全体としてどう考えるかと。人口減退はやはりやむを得ず、やはり今後20年間は減り続ける中で、どのように町や都市を再構築していくかという時代ですから、そういう中でよく議論していかなければいけないと思います。
- あと、日本一については、ぜひ何か良いフレーズがあれば、北村さんにもぜひアイデアを貸していただきたいと思います。以上です。ありがとうございます。

【川村委員長】

- ・ ありがとうございます。他にもいろいろご意見があるかと思いますが、予定の時間が来ました。本日の会議はこのあたりで閉会したいと思います。閉会に当たって、石井知事から一言、お願いいたします。

(5) 閉会

【石井知事】

- ・ 今日本当に各委員の皆さまから大変貴重なご意見を頂きまして、ありがとうございました。十分なお答えができなかった部分もあったかもしれませんが、頂いたご意見はできるだけ計画にも反映させていきます。そして、今後の10年間というのは、やはり北陸新幹線が開業して、富山県は明らかに新しい時代を迎えていますから、ここからの5年、10年は富山県にとって、また、呉西地域にとって大変大事な時期だと思います。皆さんと共に手を携えて頑張っていきたいと思いますので、どうかよろしくお願いします。今日はどうもありがとうございました。

【川村委員長】

- ・ 石井知事、どうもありがとうございました。なお、本日の会議は県西部地域委員会としては最後の委員会ということになりますので、本日の議事の答申検討案「地域の特性と取組み【高岡・射水地域】及び【砺波地域】」については、本委員会として取りまとめの上、この後の総合部会、審議会に諮って最終答申の取りまとめを行っていくこととなります。

先ほど事務局からも説明がありましたように、来年1～2月に開催を予定している総合計画審議会で答申案を審議することになりますが、この間、国の動きや県の予算編成等も見ながら、若干の調整を必要とすることも考えられます。この内容の調整については、委員長である私と事務局とで十分協議した上で、答申時には最新の内容で出したいと考えております。本日頂いたご意見を踏まえた修正・加筆、また、今申し上げたような調整につきましては委員長である私に一任いただき、本委員会として取りまとめたいと思いますが、いかがでしょうか。(委員から異議なしの声)

ありがとうございます。委員の皆さまには最終答申案を事務局から送りまして、ご確認をお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。